

## 2020年度 第2回秋田市中心市街地活性化協議会開催結果

2020年12月24日（木）13時30分より、秋田商工会議所ホール80において、秋田市中心市街地活性化協議会を開催しましたので、その議事内容について公表します。

（議事内容）

- 場 所 秋田商工会議所 7階 ホール80
- 出席者 委員：18名 オブザーバー：25名 計43名（事務局：5名）
- 協 議
  - （1）秋田市中心市街地活性化基本計画（第5回変更案）について
  - （2）その他
- 報 告
  - （1）秋田市中心市街地におけるハード事業について
    - ① あきた芸術劇場と秋田市文化創造館の整備およびプレ事業の実施状況について
    - ② 佐竹史料館の改築について
    - ③ 秋田駅西口駅前広場について
    - ④ 秋田市中通 CCRC 拠点施設「クロッセ秋田」について
    - ⑤ ホテルメトロポリタン秋田別館「ノースウイング」について
  - （2）秋田市中心市街地におけるソフト事業について
    - ① 千秋公園周辺の活性化に向けた実証実験について
    - ② シティプロモーションモデル事業について
    - ③ 羽州街道歴史観光推進事業について
    - ④ なかいちウインターパーク事業について
    - ⑤ 秋田駅前大屋根通りについて
    - ⑥ 大町・通町商店街プレミアム商品券事業について
  - （3）秋田市中心市街地活性化協議会事業の進捗
    - ① 広小路バザール調査・研究事業について
    - ② 千秋公園お堀の蓮の花を活かしたライトアップ事業について
    - ③ 第2回秋田歩き愛です実施結果について
    - ④ 情報発信事業パンフレットスタンドの利用状況および増設について
    - ⑤ アートなまち歩きの発行について
  - （4）その他
- 情報提供 東北経済産業局から「中心市街地活性化等支援事業について」資料提供
- その他 次回開催日：2021年3月25日（木）10：00～12：00

(発言内容)

【三浦会長の開会挨拶】

- ・ 新型コロナウイルスの感染拡大により、我が国経済はリーマンショック後を超える未曾有の影響を受け、2020年4-6月期は過去最悪の落ち込みとなった。
- ・ 国・県・市が講じる様々な対策により、個人消費が改善するなど一定の効果が出ているが、未だ本格回復には至っていない。さらに、第3波による年末年始の消費低迷など厳しい状況が続くことが予測される。
- ・ 政府においては、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策と社会経済活動の両立へ向け、雇用対策や消費喚起策を盛り込んだ令和2年度の第3次補正予算案が閣議決定されており、早期の予算成立・執行を期待している。
- ・ 第2期中活計画について、中核事業である「あきた芸術劇場」や「秋田市文化創造館」の整備が進んでおり、秋田市文化創造館は2021年3月に開館予定となっている。既にご案内しているとおり、当協議会でも1月に館内を視察することとしているので、是非参加いただきたい。
- ・ 民間サイドにおいても、北都銀行を中心とする「中通地区 CCRC 拠点施設クロッセ秋田」が完成し入居開始となった。また、ホテルメトロポリタンの増築部分について来年5月末に完成予定であるほか、数件のマンション等の建設計画が浮上し、居住人口の増加が期待されるなど、中心市街地に関する明るい話題が多数報道されている。
- ・ 本日は、各機関が中心市街地等において実施する事業について報告いただくほか、協議会の事業計画にある「千秋公園の蓮の花のライトアップ事業」や「広小路バザール調査・研究事業」等の進捗状況について報告する。
- ・ 本日は忌憚のないご意見をいただきたい。

【協 議】

**(1) 秋田市中心市街地活性化基本計画（第5回変更案）について**

秋田市都市整備部都市総務課の横山課長が以下のとおり説明した。

- ・ 秋田市中心市街地活性化基本計画については、これまでに4回の変更を行っている。最新の計画では、官民合わせて64の事業を位置づけ、概ね順調に進められているところだが、事業名称や実施期間など、細かな変更点が出てきている。また、事業の追加も予定しているため、今回、第5回変更案として提示し、皆様のご意見を伺いたい。
- ・ 資料1ページ目をご覧ください。1の主な変更内容について、今回の変更案は、計画に位置づけられている64の取組について、名称や事業期間、国の支援措置などについて、時点修正を行うとともに、新たに2つの事業を追加しようとするもの。この変更案が内閣総理大臣の認定を得られれば、来年度からは官民合わせて66の事業により、活性化に取り組んでいくこととなる。追加する2事業については、この後、計画の新旧対照表に沿って説明する。また、資料の2、今後のスケジュールについては、変更内容の後に説明する。
- ・ 第5回変更案について、資料2ページ目以降の新旧対照表に沿って説明する。なお、新旧対照表は左側のページが変更案、右側のページが現在の計画内容になっている。変更がある部分は赤文字で表示している。
- ・ 資料の2ページ目、3ページ目をご覧ください。基本計画は人口の社会増を目標の一つとしている。秋田版CCRC事業の内容の確定に伴う目標指標である人口の社会増加数に関する算出

式の修正について説明する。今年の11月に完成したクロッセ秋田について、戸数が現計画の50戸から60戸へと増加した。そのことに合わせ、幅広い世代の方々が入居することが想定されるため、算出式を記載のとおり修正している。なお、試算結果である140人の増加については、修正の前後で変化はない。

- ・ つぎに、新規追加する事業について説明する。今回の変更では新たに2つの事業を追加する予定である。
- ・ 1つ目の事業は、16ページに記載がある「あきたピアノフェスティバル」。この事業は、秋田市にゆかりのあるピアノ演奏者を招いて、アトリオンのホールでピアノリサイタルを実施するもの。国の交付税措置である、中心市街地活性化ソフト事業による支援を受けるために今回の変更申請で追加する。
- ・ 2つ目の事業は、18ページ目に記載がある「秋田拠点センターアルヴェローカル5G基地局整備経費負担金」。この事業は、秋田拠点センターアルヴェ内にローカル5G基地局を整備する事業となっている。次世代通信規格による視聴環境の向上や、各種イベントの実施に資するものとなっており、にぎわい創出に必要な事業である。この事業についても、中心市街地活性化ソフト事業による支援を受けるために、事業を追加するものとなっている。
- ・ 計画掲載の各事業の変更について説明する。変更内容については、新旧対照表の4ページから21ページに掲載してあるように、事業の名称変更および内容の修正が主な内容となっている。なお、修正のない事業については、事業名のみ記載し、内容以下を「(略)」としている。また、個別の事業についての説明は時間の都合上省略させていただく。
- ・ 続いて今後のスケジュールについて、本日の協議会で変更案に対するご意見等いただければ、それを変更案に反映し、年明け早々に内閣府との協議に入る。
- ・ 内閣府との協議が整えば正式な変更認定申請となるが、内閣総理大臣の認定を受けた活性化基本計画の変更については、変更申請前に中心市街地活性化協議会から意見をいただくこととなっている。
- ・ 内閣府との協議を終えた最終変更案について、活性化協議会のご意見をいただきたいと思うが、内閣府との協議により、変更案の内容が変わる可能性があるため、意見聴取に関する手続きについては、今後、協議会事務局と相談させていただきたい。なお、意見聴取の時期は、例年どおりのスケジュールであれば、2月上旬の予定となる。順調に進めば、3月下旬の変更認定となる予定。
- ・ 第5回変更案について、ご審議をお願いしたい。

出席者より特に意見はなく、原案どおり承認された。

## 【報 告】

### (1) ①あきた芸術劇場と秋田市文化創造館の整備およびプレ事業の実施状況について

秋田市企画財政部の齋藤副理事兼企画調整課長が以下のとおり報告した。

- ・ 秋田市文化創造館（以下、文化創造館）およびあきた芸術劇場（以下、芸術劇場）は基本計画の中核事業に位置付けられている。

- ・ 文化創造館は、11月20日に改修工事が完了し、建物の引き渡しを受けている。6月議会で指定管理者がNPO法人アーツセンターあきたに決定しているので、今後、開館までの準備作業を行う。来年3月21日の開館に向けて、現在、備品の搬入や館の運営準備を進めている。
- ・ 文化創造館開館日に実施予定のイベントは、開館式典、プレ事業で市民が企画した事業の実施、来年1月上旬まで募集中の文化創造館または中心市街地で実施したい企画の公開審査、9月までの約半年間実施する開館特別事業「文化創造プロジェクト」の4つである。
- ・ 文化創造プロジェクトについて、テーマを「200年をたがやす」とし、過去と未来それぞれ200年の幅であきたを探る内容の展覧会を開催する。全体監修は秋田公立美術大学の服部浩之准教授が行い、美術・食・工芸・生活・産業および舞台の5分野において、開館日から6月までは「つくる」の期間とし公開制作を行う。7月から9月は「みせる」の期間とし、その成果を発表し、文化創造館の使い方等を発信する。
- ・ 当プロジェクトで使用しないスペースや芝生広場などについては、2月21日から使用予約の受付を開始する予定。
- ・ 昨年から今年まで文化創造館の開館に向けたプレ事業を実施してきた。内容は、未来の生活を考えるスクール（ゲストを呼んでトークショー）、みんなで乾杯の練習（市民のアイデアを企画事業として実現していく）、SPACE LABO（まちの隙間をパフォーマンスや作品の発表の場として活用）の3事業となっている。
- ・ SPACE LABOについて、JR東日本、ABS、OPA、美大のサテライトセンターから会場を提供いただき、プロジェクトマップやラジオ放送など様々な方法で発信ができた。当事業を行うことで市と民間事業者、大学との強いネットワークが構築できたと考えている。
- ・ 芸術劇場について、工事の進捗状況は11月末時点で22.0%となっている。開館までのスケジュールについて、2022年3月に竣工となり、その後備品搬入等の準備作業を行う。現時点で、2022年6月1日開館予定であり、開館準備式典は6月中の土曜日・日曜日で調整する。また、大ホールと中ホールについて、設備の試運転、使用する際の導線や設備の運用シミュレーションが必要であるため、9月のグランドオープンまではお試し期間として、文化団体や学校などへ利用募集をする。
- ・ 秋田市では文化創造館と芸術劇場を中核事業として芸術文化ゾーンの形成を今まで進めてきた。歴史を切り口とした佐竹史料館の改築や芸術文化ゾーンに繋がる駅前からの導線として駅前広場の整備のほか、千秋公園ポケットパークの実証実験や芸術文化ゾーン・中心市街地のイメージを発信できるようなシティブロモーションモデル事業の実施、歴史を切り口に中心市街地を回遊できる羽州街道歴史観光推進事業など市内部でも方向性を共有しながら取り組んでいる。

#### 【意見・質問】

秋田まちづくり㈱の畠山社長が以下のとおり発言した。

- ・ 文化創造館のオープンについて、エリアなかいちでも期待している。にぎわい交流館にも問い合わせがあると想定されるため、利用の条件面などが固まったら情報共有いただきたい。

## (1) ②佐竹史料館の改築について

秋田市立佐竹史料館の榎事務長が以下のとおり報告した。

- ・ 佐竹史料館改築の基本的な考え方を検討するために有識者等の意見を反映させることを目的に、博物館学、歴史などの有識者 8 名による検討委員会を設置し、改築後の史料館のあり方や必要な機能を検討していく。
- ・ これまで委員会を 3 回開催し、有識者の意見にもとづき基本的な考え方（素案）を作成した。第 1 章は「基本的な考え方の策定意義」、第 2 章は「史料館の現状と課題、策定の進め方」、第 3 章は「検討委員会での意見」を記載している。
- ・ 資料収集、保存・管理機能について委員からは、「寄贈などによる資料の増加、企画展開催のための資料の借用展示を念頭に、余裕のある収容スペースが必要」と意見があった。
- ・ 調査・研究機能について、「市民と一体となった調査・研究が必要」と意見があった。
- ・ 展示機能について、「佐竹氏の歴史を幅広い視点で紹介するとともに他の施設が所有する資料（例えば仙台の伊達氏、米沢の上杉氏など）を借用展示し魅力ある企画展を実施すべき」と意見があった。
- ・ 教育普及機能について、「講座やイベントなどを通じた積極的な情報発信のための講堂が必要」と意見があった。
- ・ 観光・情報発信の機能およびにぎわい創出の機能について、「史料館改築とあわせて御隅櫓の内容充実を図り、観光を重視した機能分化が必要」と意見があった。
- ・ これら意見をもとに第 4 章に史料館のあり方を記載している。①秋田藩の歴史を詳しく楽しく伝える施設、②市民の郷土学習を支援するとともに人材育成に寄与する施設、③貴重な歴史遺産を後世に継承しながら、地域活性化に寄与する施設、④誰もが気軽に訪れ楽しむことができる施設-の 4 つにまとめている。
- ・ 第 5 章で史料館の必要な機能と施設規模を記載している。現在の史料館の面積は 518 m<sup>2</sup>だが、必要な要素を加えると約 3 倍の 1,500 m<sup>2</sup>が必要と考えている。今後最終案をまとめ 2 月議会で報告したい。
- ・ 改築スケジュールについて、来年度は改築基本計画を策定し各調査を実施する。2022 年度は現史料館の解体と埋蔵文化財の発掘調査と設計を行う。2023～2024 年度に工事を実施し、2025 年 3 月の開館をめざす。

### 【意見・質問】

秋田公立美術大学の小杉教授が以下のとおり発言した。

- ・ これから仕様書を作成していくと思うが、建築の設計を決める際は、設計者をプロポーザル方式等で選定していただきたい。入札方式にしてしまうと仕様書どおりのものしかできず設計者の能力が活かしきれないことがある。プロポーザル方式は労力がかかるかもしれないが確実に良い建築物ができるので強くお願いしたい。

佐竹史料館の榎事務長が以下のとおり発言した。

- ・ ご意見を参考に検討していきたい。

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ 秋田杉の活用について、模造が多く見受けられる。そろそろ街としてのアイデンティティを真剣に考えるべき。小杉先生のご意見に賛成で、施工者側のこだわりを尊重して欲しい。

#### (1) ③秋田駅西口駅前広場について

秋田市建設部道路建設課の有坂課長が以下のとおり報告した。

- ・ 2018年度に整備計画が立ち上がり、3回の検討委員会とパブリックコメントを経て、2019年9月に着工した。当初2020年3月の完成を予定していたが、一部工事の入札不調があったため、最終的には8月1日にグランドオープンした。実質2ヵ年での完成という非常に厳しいスケジュールだったが、JR東日本秋田支社等関係機関の協力により実現した。
- ・ オープン日当日は佐竹知事にもお越しいただき、県都の玄関口に相応しいスタートとなった。
- ・ オープン後は9月の交通安全キャンペーンを皮切りに、10月には秋のあきたグルメフェスタ、11月にはJR東日本秋田支社の「エキマエ、はじまる。プロジェクト」など様々な企画で活用いただき、毎月のように賑わい創出に寄与できている。今後も人々の憩いの場および賑わい創出空間として多くの方に利用いただきたい。

続いて、秋田市建設部建設総務課の大志賀課長が以下のとおり報告した。

- ・ 整備前は駐車場不足が懸念されていたが、トピコの駐車場を活用する流れが定着している。
- ・ TBSのぴったんこ・カンカンで藤あや子さんと佐々木希さんが当広場を会場に秋田をPRするなど発信の場にもなっている。
- ・ 一般利用について、当広場は道路一部として管理・貸出しをしているが、駅前の良いロケーションとしてイベントでも活用いただいている。斜め歩道は車両が乗り入れすることができる。
- ・ 芝をいためる行為や周囲に迷惑をかける行為等を禁止事項としているが、できるだけ賑わい創出などに活用いただけるよう窮屈なルールは設定していない。ただ、営利目的での使用はできないこととしている。
- ・ 利用については建設総務課が窓口となっているのでご相談いただきたい。

#### (1) ④秋田市中通 CCRC 拠点施設「クロッセ秋田」について

㈱北都銀行地方創生室の赤坂シニアマネージャーが以下のとおり報告した。

- ・ 10月5日に施設をオープンすることができた。11月30日に入居者への引き渡しを開始し、現状40戸程度引越ししている。4月初旬までに60戸全ての引越しを完了する予定。
- ・ テナントについて、秋田信用金庫、弊行、ふくおか内科クリニック、すずらん薬局などがオープンしている。また、1月10日には美容クリニック、2月3日には他のテナントがオープン予定であり、3月末にはグランドオープンをする。
- ・ 秋田市中通地区まちづくり協議会について、これまで13回開催し、1月13日に14回目を開催予定である。協議会において、入居者向けサービスブックの作成をしており、要介護事業者、生活支援といったカテゴリー別に周辺商店街や事業者80件程度のパンフレットをサービスブックに折り込みし配布している。その他、月4回程度サークル活動を行い、生き甲斐や賑わいづくりに繋げている。また、ウェアラブル端末を活用した健康管理システムの導入を予定している。これら取組を通じ入居者の健康長寿を実現したい。

### (1) ⑤ホテルメトロポリタン秋田別館「ノースウイング」について

東日本旅客鉄道(株)秋田支社地域活性化推進室の田口室長が以下のとおり報告した。

- ・ ホテルメトロポリタン秋田別館工事計画については、11月26日に「名称」と「開業日」についてプレスリリースを行い、名称を「ホテルメトロポリタン秋田ノースウイング」に決定した。名称の由来は、本館北側に位置していること、ノーザンステーションゲート秋田プロジェクトの一環であること、飛躍の思いを込めウイングを入れ込んだ。開業日は2021年5月31日となっている。
- ・ 客室について、秋田の四季をモチーフとし4タイプの内装で構成している。また、秋田杉のティッシュボックスや樽岡焼きのマグカップを設置するほか、本荘ごてんまり、イタヤ馬をアートワークとして展示する。プレミアムフロアには、秋田市新屋ガラス工房のグラスを設置する。
- ・ その他、秋田らしさを体感いただけるよう、本館ロビーは秋田杉のベンチ、フロントカウンターで出迎える。エレベーターホールには大曲の花火をモチーフにした組子細工のアートワークを展示する。
- ・ ホテル付帯施設について、1階にランドリールームを設置するほか、コンビニエンスストアが入居する。2階にはフィットネスジムが入居する。本施設はJR東日本スポーツ会社が運営し、ライトジムなのでプールなどはないが、24時間年中無休で利用いただける。
- ・ ホテル本館と駅ビルアルスのエントランスについて、秋田の玄関口にふさわしい空間となるようリニューアルする。

### (2) ①千秋公園周辺の活性化に向けた実証実験について

秋田市建設部公園課の保坂課長が欠席のため、事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 事業の目的について、千秋公園を魅力あるにぎわい空間とするため、新たな公共サービスの創出を目指した取組として、移動販売車による飲食店等の営業を行う社会実験を実施した。
- ・ 社会実験の概要について、千秋公園東側ポケットパークにおいて、9月1日から約2ヶ月間移動販売車の出店を実施した。1日3台を上限とし、午前10時から午後4時まで出店した。
- ・ 出店者の公募について、3月4日～同月27日まで募集し9社から応募があった。うち7社から実際に出店いただいた。
- ・ 出店実績について、出店日数45日、出店台数は累計80台、販売金額は合計478,140円となっている。
- ・ アンケート調査結果について、来場者は、本取組について「大変良い」と答えた方が73%と最も多かった一方、出店者は、実施場所の市場性について「悪い」と答えた出店者が57%を占めており対照的な結果となった。
- ・ 今後の取組について、今回は新型コロナウイルス感染症の影響による実施期間の延期や人通りの減少などが少なからず販売金額に影響したと考えられるが、3密対策としてオープンスペースが再評価されつつある。アンケート調査結果を踏まえ、実施時期や宣伝方法など見直し、来年度も実施する予定である。

## 【意見・質問】

秋田公立美術大学の小杉教授が以下のとおり発言した。

- ・ 来年度実施する際は、実験なので様々な時間帯で行うなど、より効果的な実施方法を検証して欲しい。夕方下校時間の高校生を対象とすれば効果があるのではないかなど仮説を立てながらいくつかの方法を試したほうがより効果的な方法が見つかると思う。場所についても、ポケットパークは2ヶ所あるなど、一気に試すのは難しいかもしれないので長期的に取り組んでいただきたい。

秋田市広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ 商店街をずっと見てきて、これからの商品販売額は移動販売に越されるのではないかと考えている。他地域に先んじて、秋田商工会議所が移動販売業者をまとめ、一つの産業としてまちづくりの政策に加えていって欲しい。それを協議するのが当協議会だと思っている。移動販売車は増えてきていると感じる。移動販売車が出店しやすいように水道や下水の受け口を設置してあげたり、移動販売の部会を会議所に設置し盛り上げていただきたい。

三浦会長が以下のとおり発言した

- ・ 貴重なご意見として受け止めて、今後の進め方に反映していきたい。

## (2) ②シティプロモーションモデル事業について

秋田市企画財政部人口減少・移住定住対策課の八柳副参事が以下のとおり報告した。

- ・ 昨年4月、本市に人口減少・移住定住対策課が新設され、課内にプロモーション担当が設置された。現在は秋田市シティプロモーションモデル事業を推進するほか、秋田市シティプロモーション基本方針の策定を進めている。本基本方針について、原案に対するパブリックコメントを1月21日まで募っているほか、市民100人会へのアンケート調査を実施している。3月中策定を目指している。本基本方針は「全庁的なシティプロモーション意識の醸成」「市民等をパートナーとした取組の促進とまちに関わる当事者意識の醸成」「魅力的、効果的、積極的な情報発信」を柱としている。
- ・ なお、秋田市シティプロモーションについて、「自らの住む地域に関わる当事者意識をもった人を増やし、秋田市民をはじめ市内外の人々から秋田市を好きになってもらう」を目的としている。
- ・ シティプロモーションモデル事業の概要について、市内に中心市街地と農山村地域2ヶ所の計3ヶ所のモデル地域を選定し、地域住民と大学生等が地域の魅力を洗い出し、今後の地域づくりについてワークショップ等を重ねながら、住民の誇りと愛着の醸成を図り、住民自らが地域の情報を発信し、地域の認知度やイメージ向上を図っていく。また、基本方針の柱の一つ「市民等をパートナーとした取組の促進とまちに関わる当事者意識の醸成」に沿ったものと捉えており、当事者意識を育くむとともに地域への誇りや愛着（シビックプライド）を育もうとするものである。本事業は、(一社)持続可能な地域社会総合研究所の藤山所長に委託し実施している。
- ・ 秋田市シティプロモーションモデル事業における取組の一つ、中心市街地編まちあるきワークショップについて、中心市街地の住民だけでなく、勤務者、通学者、商業者、ボランティア活動者、買い物客など広い括りで参加者を選定し、7月に意見交換会を実施した。その結果、秋



田工業高等専門学校が既に行っているまちづくりに関する取組を母体とし、「市民が楽しめる繋がれるを引き出す小さな場所づくり」を進める方向で調整している。11月15日に実施したまちあるきワークショップには、秋田工業高等専門学校の生徒を含め20名に参加いただいた。エリアなかいちや仲小路、広小路、大町、川反などそれぞれの地域に魅力があるが、そこまでに距離感を感じるため、繋ぐ良い方法がないかという視点で、まちとまちを繋ぐ候補となる空間と具体的な対策を参加者に考えてもらった。来年2月13日にレゴワークショップを開催予定であり、まちあるきで考えた結果をもとに、まちとまちを繋ぐ空間をレゴで組み立てて参加者間で共有したい。

- ・ 来年度の事業展開イメージについて、具体案として、街中に小さなコテージを設置し市民や職場対抗で飾り付けする事業や、秋田駅前大屋根通りのアーケードに1,000本の傘を設置しアンブレラリバーを作ることができないかなど検討している。
- ・ 最後に、基本方針原案について、委員の皆様からも是非ご意見いただきたい。

#### (2) ③羽州街道歴史観光推進事業について

秋田市観光文化スポーツ部の納谷副理事兼文化振興課長が以下のとおり報告した。

- ・ 10月4日に羽州街道歴史まつりを実施した。国の重要文化材である赤れんが郷土館を会場としたミニコンサートや日吉八幡神社での民謡演奏、旧金子家住宅でのダンスの公演など羽州街道沿線の文化材・施設を会場としたイベントを行うほか、久保田城址歴史案内ボランティアの会等のご協力のもと外町、牛島、八橋の3つのコースでウォーキングを実施した。
- ・ 今年度はコロナ対策として、定員制、事前参加申込制を取り入れ、人数制限、参加者情報の把握に努めた。当日は大雨の天候だったが、実数で1,013人に参加いただいた。
- ・ 歴史観光というと京都や奈良、鎌倉などを想像される方が多いと思うが、身近な歴史・文化材に触れることは非常におもしろいと考えている。市内外の方に一人でも多く秋田の歴史を楽しんでいただきたい。また、それにより歴史を通じた中心市街地の活性化に繋がると考えている。
- ・ その他、わらび座ミュージカル竿燈物語について紹介した。

#### (2) ④なかいちウインターパーク事業について

秋田まちづくり㈱の畠山社長が以下のとおり報告した。

- ・ 今年度も秋田市と共催で、なかいちウインターパークを実施している。
- ・ コロナ禍ということでイルミネーションの充実を核にし、密をさけて集団ではなく個人や家族連れなど小人数グループが楽しめる内容を企画した。
- ・ 秋田駅西口からエリアなかいちにかけて中心市街地の夜をイルミネーションで彩る「あきた光のファンタジー」を行うほか、「光のファンタジーフォトコンテスト」を実施しており、12月23日時点で658件の応募があった。
- ・ 1月2日に年明けうどんの振る舞い、3日はお雑煮振る舞いを行うほか、両日、餅つき大会やおみくじ体験等を行う。
- ・ 2月1日から実施するバレンタインウィークについて、テナントと協力しオリジナルマグカップをつくり限定ドリンクを販売する予定。ドリンク購入者から抽選で相場詩織さんの手づくりチョコを手渡しでもらえるキャンペーンを実施する。

- ・ 2月5日から実施するアイスパークについて、氷柱花やハート型氷像等を展示するほか、2月13日と14日はキャンドルアートを実施する。
- ・ にぎわい交流館、県立美術館ではウィンターパーク期間中に様々な企画を実施している。冬でも明るい中心市街地をつくっていききたい。

#### (2) ⑤秋田駅前大屋根通りについて

秋田市駅前広小路商店街振興組合の田村事務局長が以下のとおり報告した。

- ・ 秋田駅舎の西側からニュー金座街ビルまでを覆う大屋根下の名称を「秋田駅前大屋根通り」に決定した。
- ・ 県の花フキノトウと秋田路をデザインした看板シートを大屋根の支柱に貼っており、県外観光客に秋田を知ってもらえるようなデザインとした。大屋根の管理会社は秋田中央ビルディングと秋田ショッピングセンターなどで組織する秋田駅西口活性化事業協同組合。2000年11月に大屋根は完成したが、正式名称が決まっておらず、「大屋根下」など様々な呼ばれ方がされており、取材が多い中、地域や店の場所を説明しにくいことから名称を決めた。今後、愛称募集などは予定していない。
- ・ 昨年まで、フォンテ西側のセブンイレブン前に秋田観光コンベンション協会が管理する秋田路の植栽が設けられていて、大屋根通りの看板シートとマッチすると思っていたが、今年になって植栽が撤収されてしまった。育てるのが大変かもしれないが、是非復活するようお願いしたい。

#### (2) ⑥大町・通町商店街プレミアム商品券事業について

秋田市大町商店街振興組合の高堂理事長が以下のとおり報告した。

- ・ 12月11日に商品券を発売したがあっという間に完売し、問い合わせが殺到した。分かりやすい内容のためこのような結果になったと思う。
- ・ 利用期間途中のため、使用率などの数字はこれからである。

#### 【意見・質問】

秋田大学の篠原教授が以下のとおり発言した。

- ・ ハード事業、ソフト事業に関する多数の報告を聞かせていただく中、「公衆トイレ」がまち歩きのために欠けていると感じた。特に秋田にはじめて来た観光客はどこにトイレがあるかわからない。中心市街地のど真ん中に案内所を兼ねた大きめの公衆トイレがあると県外客等がまち歩きしやすい環境になる。どこに整備するかなどの問題があると思うので、整備が難しければ、トイレを貸してくれる店舗にステッカーを貼ることや、その店舗をマップに記載するなどでもいいと思う。
- ・ 中心市街地の歩道は意外に平坦ではないため、車椅子の方が通りやすいか、一人で走行できるかなど調査し改善することで、高齢者を含め誰でも安心してまち歩きを楽しめるのではないかな。

### (3) ①広小路バザール調査・研究事業について

事務局が以下のとおり説明した。

- ・ 事業の目的について、あきた芸術劇場や秋田市文化創造館の完成に併せ、中心市街地に定期的な賑わいを形成するための広小路バザールのグランドデザインを調査研究する。
- ・ 事業の背景について、第2期中心市街地活性化基本計画が終盤を向かえ大型事業が次々と完成してきている。また、広小路を使ったイベントは5月の「これが秋田だ！食と芸能大祭典」、7月の「与次郎駅伝」、9月の「千秋花火」、10月の「秋田国際ファミリーマラソン」であり、比較的奇数月に開催されている傾向にある。
- ・ 事業の方向性について、県内物産資源・県内事業者を結集して中心市街地への新たな集客装置としたい。
- ・ 事業の波及効果について、千秋公園と連携した城下町ルネッサンスの具現化、広小路を活用することで東西軸および南北軸を結ぶ賑わいの核を創出、広小路にとどまらず JR 東日本の各種企画やエリアなかいちなど各広場等での各種イベントと連携し賑わいを創出する。
- ・ 事業イメージについて、県内の店舗事業者を出店対象とする。物産販売店においては、魅力ある看板商品やアウトレット商品などを販売し、バザールへの出店を通じ実店舗への誘客につなげていただきたい。産地直送販売店においては、県内の海の幸・山の幸等を生産者が持ち寄り、朝市的な魅力を提供する。その他、菓子工業組合等と連携したスイーツ天国、親子ワークショップ、園芸市を開催するほか、ふるまい企画により集客を図る。最終的には、買い物客にとって魅力的と感じられる出店内容を揃えることで事業が軌道に乗ると考えている。
- ・ 事業名称について、広小路バザールを現時点の仮称とし、今後事業内容を含め検討していく。
- ・ 会場ゾーニングについて、広小路を久保田町交差点から木内前交差点まで歩行者天国化し、中土橋通り、秋田市文化創造館等を活用し、「物産・販売」「産直販売」「スイーツ天国」「園芸市」「ふるまい企画」「親子ワークショップ」を区分し来場客が買い物しやすいようにする。またエリアなかいちで実施するイベントと連携し集客の相乗効果を図る。
- ・ 事業実現のための課題として、年何回開催できるかなどの運営管理に関する課題のほか、会場づくりに関する課題、事業収支に関する課題、集客面の課題を整理し今後解決していきたい。特に収入源をどこに求めるかは大きな課題であり、補助金の活用を含め現在検討を進めている。
- ・ 事業実施概要案について、事業が定着し最終的には4月・6月・8月・10月の第3日曜日に開催し、中心市街地に定期的な賑わいを創出したい。
- ・ 出店店舗数、会場レイアウト、収支を含めた実施プランを3つ作成した。コスト面ではテント調達費、交通規制等にかかる費用が多額となる。
- ・ 来年度について、9月頃にプレ開催を計画しており、開催費への支援等を秋田県・秋田市に相談している。また、エリアなかいちにぎわい広場で開催されるイベントと連携することを検討している。

#### 【意見・質問】

秋田公立美術大学の小杉教授が以下のとおり発言した。

- ・ 景観デザイン等の視点でいくと、お堀り側にテントを設置するのではなく、建物側に設置したほうが、来場者は景観を楽しみながら買い物できる。お堀のロケーションを活かしたテントレイアウトということで参考にしていきたい。

### (3) ②千秋公園お堀の蓮の花を活かしたライトアップ事業について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 新たなナイト観光スポットの創出と 2021 年に開催予定の東北 DC へ誘客を図るため、千秋公園お堀の蓮の花のライトアップ撮影会を 8 月 19 日に実施した。
- ・ 中土橋と広小路の歩道に発光ダイオードのカラー投光器 10 台を設置し、スチール写真撮影と動画撮影を実施した。ドローンを活用し空撮も行った。
- ・ 事業費は 132 万円となり、県観光創世推進会議からの補助金 100 万円を活用させていただいた。
- ・ プロモーション動画について、東北 DC 特設サイトおよび秋田市公式サイト、秋田商工会議所ホームページで公開している。
- ・ 2021 東北 DC に向けて、ハード整備は秋田市へ設置に係る予算確保を要望し、工事関係者との打ち合わせが進行している。ハード整備と連携したソフト事業「2021 蓮まつり」の実施を秋田市ナイト観光検討委員会で検討しており、県補助金を活用し具体的な企画を立案している。

#### 【意見・質問】

秋田広小路商店街振興組合の佐々木理事長が以下のとおり発言した。

- ・ 広小路バザール、蓮まつりが開催されれば、中心市街地における移動販売車の出店機会がさらに増える。そういう情報を移動販売業者に広く伝え、より多くの移動販売車に出店いただければと思っている。またステージイベントの代わりに移動販売車を並べるなど移動販売車の活用方法をさらに検討して欲しい。出店者が収益をあげられるよう 10 時間程度のまとまった出店時間を設けるなどの配慮も必要。当協議会で、まずは移動販売車の出店機会を情報共有し、出店機会の増加を図りながら、最終的にはまちづくりの政策に移動販売を加えていきたい。

三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 広小路バザール、蓮まつりともに開催までに多くの課題を乗り越えていかなければいけないので、皆様からのご意見を参考にトライしながら長期的に取り組んでいきたい。

### (3) ③第 2 回秋田歩き愛です実施結果について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 歩くことによる健康増進と街への回遊性向上による中心市街地商店街等の活性化に資することを目的に、9 月 27 日に実施した。
- ・ 広小路・千秋公園から寺町・大町・南通までの約 7 km のモデルルートを設定し、9ヶ所のチェックポイントを設置した。協賛企業は 22 社。
- ・ 76 名に参加いただき、50 代以上の参加者が大半を占めるほか、家族連れでの参加が見受けられた。ウォーキングを楽しむとともに、同時期に秋田商工会議所が実施していた「買い物・体験スタンプラリー」参加店で買い物をする参加者が見受けられた。
- ・ 歩き愛です事業について、GS 世代研究会が全国各地で 100 回以上実施してきたが、今年度は秋田のみの実施であること、来年度もコロナの影響で企画を立てられない状況であることから、事業の終了を発表した。それを踏まえ 12 月 21 日に開催した秋田歩き愛です実行委員会において、今年度をもって事業を終了することとした。

### 【意見・質問】

秋田大学の篠原教授が以下のとおり発言した。

- ・ まち歩きイベントが終了し残念である。鳥取県境港市の水木しげるロードでは道路脇には、漫画に登場する妖怪のブロンズ像が立ち並んでいるが、それと併せ 1 冊 100 円程度でスタンプ台紙を販売し、スタンプラリーを実施していた。他の地域でも 365 日スタンプラリーができるようにしているところがある。
- ・ 秋田でも年中まち歩きを楽しめるようなしかけを関係者で知恵を出し合い実施できればと思っている。

三浦会長が以下のとおり発言した。

- ・ 秋田市のほか健康ウォークのための仕組みがあるので、機会があれば検討させていただく。

### (3) ④情報発信事業パンフレットスタンドの利用状況および増設について

事務局が以下のとおり報告した。

- ・ 中心市街地におけるイベント等を PR するために秋田駅ぽぽろード等に設置したパンフレットスタンドについて、11 月 30 日時点で 27 件の利用実績となっている。イベントが集中する時期には、利用申請のあった広告パンフレットを全て置くことができないという課題が生じている。
- ・ 来年度以降、例年実施されているイベント告知に加え、秋田市文化創造館の開館事業やあきた芸術劇場のプレ事業などの新規事業による利用増加が見込まれることからパンフレットスタンドを 12 月 22 日に増設した。

### (3) ⑤アートなまち歩きの発行について

事務局が 12 月に発行したアートなまち歩き最新号を配布し、クロッセ秋田の仲小路ギャラリーを新たに紹介した。

### 【情報提供】

東北経済産業局より提供された「中心市街地活性化等支援事業」に関する資料を出席者に配布した。

### 【その他】

事務局が次回の当協議会開催日について「2021 年 3 月 25 日（木）10：00～12：00」とすることを報告した。

閉 会